



社団医療法人 養生会 月刊発行新聞

かしま

ほっと
HOT
ほっと
hot

通信

5月号 Vol.388

令和7年（2025年）5月1日発行

■編集/かしま病院広報企画室
■発行/社団医療法人養生会〒971-8143
福島県いわき市鹿島町下蔵持字中沢目22-1
tel.0246-58-8010(代) fax.0246-58-8088

ご意見・ご感想は...

上記住所へ郵便、またはE-mailでお送り下さい。
かしま病院広報企画室 まで
kouhou@kashima.jpホームページ <https://www.kashima.jp>

かしま病院

検索



スマートフォンをご利用の方は、

QRコードを読み取り、アクセスしてください。

PCサイトと同じ内容がご覧頂けます。



巻頭特集

- ① 新入職者合同研修 実施報告
- ② 新任医師のご紹介

禁煙と体重増加

コラム ひんがら目 (215)

『長瀬克慶先生を偲ぶ
95歳まで外来診療を続けられました』
呼吸器科 部長 山根 喜男

ようこそ家庭医療へ!

リハビリPOST

Fukushima GP Impact Forum ご報告
かしま荘通信

令和七年度 養生会 合同入職式



令和7年度入職式

社団医療法人養生会と社会福祉法人養生会の合同入職式が、4月1日（火）に執り行われ、当院17名、かしま荘3名の新人が養生会の仲間に加わりました。今年度より合同での入職式となりました。

巻頭特集

- ① 新入職員オリエンテーションを行いました
- ② 新任医師のご紹介

BLS安全研修



心肺停止や呼吸停止に対する一次救命処置を学びました。

防災教育研修



消火訓練や、救助袋の体験を行いました。

01

ようこそ かしま病院へ!

新入職員オリエンテーション開催

希望を胸に
医療現場へ
第一歩。

4 月1日（火）から7日（月）まで、新入職員オリエンテーションを行いました。

今年度は新卒・中途を含め医師5名、看護師4名、診療放射線技師1名、臨床工学技士1名、理学療法士3名、作業療法士3名、言語聴覚士2名、社会福祉士1名、管理栄養士3名、事務職員（看護部、連携課、健診課、医事課）4名の、計27名が入職しました。

院内見学



病棟や、外来、リハビリ室など、院内の説明を受けました。



02

新任医師のご紹介

4月1日から新任医師も入職しています。
先生方から着任のご挨拶をいただきましたのでご紹介します。

皆様初めまして、総合診療科専攻医3年目の元文拓郎と申します。昨年度もかしま病院にお世話になりましたが、4月から常勤医として勤務させていただきます。何卒よろしくお願い申し上げます。

総合診療科
元文 拓郎
げんぶん たくろう

出身は神奈川県横浜須賀市中、令和3年に東京慈恵会医科大学を卒業し、東京慈恵会医科大学付属柏病院で初期研修を行い、初期研修修了後は東京慈恵会医科大学総合診療部に入局しました。入局後は東京慈恵会医科大学附属病院と第三病院で2年間勤務し、4月からかしま病院に勤務させていただきます。

患者さんの疾患だけではなく、生活背景や地域を含めて診ていく総合診療医こそが自分の理想とする医師像だと思い、総合診療科を専攻しました。このかしま病院で研鑽を積み、今後は家庭医の道に進んでいきたいと考えています。

至らぬところが多々あると思いますが、いわきの医療に少しでも貢献できれば幸いです。1年間何卒よろしく願い申し上げます。

初めまして、総合診療科で今年の4月から勤務させていただきます。戸倉幸大と申します。私は福島県白河市出身で、山形大学医学部卒業後、初期研修を白河厚生総合病院で2年間行いました。その後、横浜市立大学附属病院で麻酔科専攻医をしており、自分がなりたかった医師像について思い悩むことが多くなり、元々内科や総合診療科と進路を迷っていたこ

総合診療科
戸倉 幸大
とくら ゆきひろ

ともあり、まずは医療のすべての基本となるプライマリケアを一から学び直し、自分ができていることを一つずつ増やしていきたいという気持ちで頑張りました。そんな折、かしま病院をご紹介いただき、この環境ならば成長していけると確信し、当院でお世話になることを決めました。

今後は日本病院会総合診療学会の認定医取得を目指してまいります。医師としてまだまだ未熟であり、ご迷惑をおかけしてしまうと思いますが、一日でも早く皆様のお役に立てるよう日々精進いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

総合診療科
高田 修磨
たかだ しゅうま

皆初めまして。高田修磨と申します。出身は東京都八王子市で、福島県立医科大学卒業後、2年間南相馬市立総合病院で初期研修をさせていただきました。そして2025年4月より福島県立医科大学総合診療科としてかしま病院でお世話になることとなります。

私が医師を志すきっかけとなったのは幼いころ喘息に苦しむ私の不安を救ってくれた優しい先生へのあこがれであり、今もその先生のような患者様の疾患だけでなく不安も和らげることでできる医師を目指しております。誰しも病気になることは不安になります。そしてその先の見えない不安は患者様だけでなく、ご家族にもあると思います。大小問わずそれらの不安をお話しください。未熟者ですが一緒に少しでもその不安を解決できればと考えております。

まだまだ経験も浅く至らぬことも多々あると思いますが、少しでもいいわきの医療に貢献できるよう精進してまいり所存です。これから何卒よろしくお願いいたします。

川崎市立多摩病院、専攻医3年目の横井藍です。気づけば医師5年目、医師としてはまだまだひよっことはいえ、もうそんなに時間が経ってしまったという驚きと、5年目に相応しい実力がまだまだ足りていないことへの焦りを感じております。そんな中、縁があり、1年間このすばらしい機関で勉強させていただけることとなりました。

総合診療科
横井 藍
よこい あい

きつかけも決定的なイベントがあつたわけではなく、父は医師ですが働いている姿は見る機会がありませんでした。ですが、漠然と人のため働けることが自分の幸福に最も近づくのではと考えるようになり、いつの間にか医師を志し、地域に根付いた家庭医を目指すようになりました。

かしま病院では、外来から病棟、リハビリ、在宅まですべての流れを経験でき、素晴らしい先生方のご指導のもと理想とできる家庭医にむけて勉強することを感じております。ご迷惑をおかけしますが、よろしくお願いいたします。

婦人科

新たに毎週木曜日に婦人科を担当する医師をご紹介します。

代田 泰大
しろた やすひろ出身大学：東京慈恵会医科大学（令和3年）
専門：婦人科
診察内容：婦人科疾患全般受付時間 8:30～11:00
診察時間 10:00～12:00

基本的には事前予約制となります。当日予約なしでかかりたい場合は、受付時間内にお越しください。

代田泰大と申します。東京都出身で、東京慈恵会医科大学付属病院の婦人科にて専攻医として勤務しています。助産師だった母の影響で産婦人科医を目指しました。

この度、ご縁があり、かしま病院にて毎週木曜日の婦人科を担当することとなりました。福島県いわき市に来るのは初めてですが、いわきの地域医療に婦人科医として貢献していきたいと思ひます。

これからよろしくお願いいたします。

麻酔科
洪 浩彰
こう ひろあき

皆様こんにちは。そして新人の皆さま初めまして。洪浩彰と申します。出身は会津若松市。会津高校・弘前大学を経て麻酔科医となりました。1993年以来いわきに住みます。2005年意を決して麻酔科診療所を開設。これを機に当院とお付き合ひが始まりました。今年でなんと20年の節目。とりわけ婦人科の節目。とわくわく、2000件を超える手術のお手伝いをさせていただきます。

開業後の麻酔症例が1万例に近づく中、他方で痛みの患者数が課題となってきました。この10年で約2.4倍、2024年のべ数は約1千600名。時間不足に悩む中に有難い助言を頂き、当院入職に恵まれ、外来拡充が叶いました。また急増した手術のお手伝いも可能となりました。外来の目標は痛みに苦悩する患者・家族の頼りになること。麻酔は全然・最高・快適と言って頂ける安楽を提供すること。また現代の新鮮な考え方を、若い先生方から教えて頂ければ更なる幸甚です。

小さな事でも懸命に丁寧な対応を続ければ、仕事は楽しく楽になる、そう信じています。どうぞよろしくお願いいたします。

ようこそ 家庭医療へ!

～ いわきに生きる家庭医育成への挑戦 ～

第183回 学びの交差点 ～新たな教育爆発～

石井 敦 病院長



当院では、2008年から総合診療・地域医療を学ぶ医学生や臨床研修医、家庭医療・総合診療専攻医など若い医療人を積極的に受け入れてきました。「患者さんの疾患だけでなく人生まるごと診よう!」更に「患者さんの背景である地域全体の魅力にも目を向けて行動してみよう!」といった「患者さんも地域もまるごと診る」というコンセプトで、広い視野を持って行動することができる医師の育成を目指し教育活動を続けてきました。

幸い、当院の取り組みの趣旨を理解していただけたのか? はたまた社会ニーズが高まっているのか? 当院で学ぶ学生・研修医の数は増加の一途です。かつて、江戸時代に庶民の読み書き能力を世界最高水準にまで急速に向上させた寺子屋は「教育爆発」と称されました。諸説ありますが、飢饉などにより不安定化した幕政下、全国各所で藩政維持のために人材育成に注力した成果とされます。私は、社会ニーズを満たす

ための医学教育に注力することは最も合理的で、新たな「教育爆発」の契機と成り得ると考えています。

我が国は「患者さんも地域もまるごと診る」つまりプライマリ・ケアを専門とする総合診療医の育成の後進国であり、2018年に日本専門医機構の第19番目の専門医として認定されたばかりです。しかし、プライマリ・ケアを担う総合診療医の育成は、超高齢・多死社会において最優先すべき急務であり、まさに緊急度の高い社会ニーズです。

そんな中、これまで通り福島県立医科大学から複数の総合診療専攻医が、そして更に今年度からは新たに、東京慈恵会医科大学や聖マリアンナ医科大学の総合診療専門研修プログラムの専攻医も当院の常勤医として多数赴任してくれました。かしま病院が、出身も背景も所属も異なる彼らの学びの交差点として、異文化交流がなされ、新たな化学反応が起こるのを見守りながら、彼らの熱い志の開花・結実を支えています。そして、新たな教育爆発を起こします。

かしま病院では、2008年度から家庭医を志す研修医や地域医療実習を行う医学生を受け入れています。このコラムを担当する医師の石井敦は日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医として、研修医・医学生の指導を行っています。



第170回

リハビリテーションの 職種について

今回はリハビリテーションの職種についてお話していきたいと思います。病気やけが、加齢などによって、日常生活動作やコミュニケーション機能に障害が生じてしまった患者様を治療、支援していくのがリハビリテーションの専門職です。リハビリ専門職には、理学療法士(Physical Therapist: PT)、作業療法士(Occupational Therapist: OT)、言語聴覚士(Speech Therapist: ST)の3職種があります。理学療法士は、主に寝返る・起き上がる・座る・立つ・歩くなどの基本的な動作を中心に運動療法、物理療法(温熱、電気など)を用いて、機能の再獲得を目指していきます。作業療法士は、主に日常生活や社

会生活への復帰を目的とし、食事・着替え・入浴・料理などの応用的な動作を中心に動作訓練などを通して、機能の再獲得を目指していきます。言語聴覚士は、主に話す・聞く・食べる・飲み込むなどの機能が障害されてしまった患者様に対して、適切な評価や訓練、指導を行い、機能の再獲得を目指していきます。それぞれ分野が違いますが、各分野のスタッフが協力して、患者様や家族様を支援していきます。

今年度、かしま病院には、新たに8名のリハビリテーションスタッフが加わりました。理学療法士3名、作業療法士3名、言語聴覚士2名です。どうぞよろしくお願いいたします。

作業療法士 下鍋 愛理



かしま荘通信

オーバーテーブルをご寄贈いただきました。4月17日(木)



4月17日(木)、常磐共同ガス(株)様より、利用者様のお食事等で使用するオーバーテーブル2台を寄贈いただきました。

「立派なテーブルありがとうございます。大事に使わせていただきます。」と代表の利用者様が感謝の言葉を述べられておりました。

Fukushima GP Impact Forum 〆報告



3月29日(土)の午後、福島県立医科大学が主催する「Fukushima GP Impact Forum (FGIF)」のプログラムの一環として、福島県の総合診療/地域医療を学ぶために、県内の高校生や医学生など9名の学生が来院しました。

前半は院内見学を行い、後半は総合診療医の石井敦院長・藤原学総合診療科部長・金井雄大医師より、医師の働き方や総合診療医の醍醐味等の講話を行いました。